

フィンドレー大学奨学生レポート（機械工学系） 2月

「寒さへの慣れ」

ローラ・クリスカさん講演会

2013年2月14日の聖バレンタインデーに、異文化コンサルタントであるローラ・クリスカさんの講演会がありました。異文化コンサルタントという仕事は、多国籍企業で起こる文化の差異により生じる従業員間の諸問題を解決するための方策を企業側に提供する、という仕事です。つまり、異文化コンサルタントである人は、少なくとも二つの文化に精通した人でなければならないということです。

ローラ・クリスカさんは、オハイオ州出身の方で、大学生時に東京の大学へ一年留学されていた経験があり、さらに、卒業後は、日本企業であるホンダに初のアメリカ人女性の従業員としての職業経験がある方です。彼女は、その異質とも言える経験から、現在、異文化コンサルタントとして活躍しています。また、その日本での経験を一冊の本にまとめて世に送り出している方でもあります。



▲クリスカさんの熱いプレゼンテーション

その彼女の著書を、講演会に出席するまでに読破しなくてはならない、という課題をアカデミックアドバイザーであるフィンドレー大学の川村宏明先生から与えられたので、途中で舞い込んだ悪名高い風邪にも負けず、必死に彼女が丹念を込めて連ねた英文に食らいつきました。

その彼女の著書から学んだことは、日本に学生として留学することと、一人の従業員として日本の会社に勤めるということは、まったく異なるということです。彼女は、学生として1年留学した経験から、自信を持って日本で働き始めたわけですが、そこで、たくさんの日米の文化間の壁にぶち当たっていました。学生の時には見えなかった新たな日本の文化が見え始めたのです。それは、女性従業員にだけ課された制服やお茶くみの仕事であったり、目には見えない暗黙の上下関係だったりしたわけです。彼女はその著書の中で、日本企業の文化に対するとっても率直な意見を述べていて、読んでいるこちら側を楽しませてくれました。また、彼女が実施した制服撤廃運動を通して、彼女の行動力、攻めの姿勢に感嘆しました。

その彼女が、講演会で強調していたことは、文化にも見える部分と見えない部分が存在しており、見えない部分に対する理解が、多国籍企業が会社を運営する上で最も重要であるということです。この考えは、まさに彼女の日本での就業経験が元になっているでしょう。私自身、NBOでインターンシップを経験するまで、アメリカ人の方の、公共の場で部下を褒める、また、公共の場で部下を叱らない、ということに気づきませんでした。また、彼女が指摘していたのは、日系企業が海外に進出したときに、駐在員の生活がほぼ日本での生活と変わらず、9割は同じである、ということです。たしかに、私のインターンシップ先でも日本人駐在員の方は駐在員同士で固まっています。最も寂しいと感じるのが、日本人駐在員の方の送迎会が日本レストランで、さらに日本人の方しか招待されていない、という事実です。日々の仕事で多くのアメリカ人の方と関わっているはずの駐在員の方の門出に彼らが招待されないのは、正直悲しいとしか言い様がありません。



▲クリスカさんと講演に集まった人々

その講演会の翌日、先ほど登場されたアカデミックアドバイザーである川村先生が、ローラ・クリスカさんと NBO で働く私と、同奨学生の荒瀬くん、それと日系企業で現在働くアメリカ人の方、ネーサン・レイザーさんと合計 5 人で、大学近くのメキシコ料理店でランチのお食事会を開いてくださいました。私は、そこでクリスカさんと対面し、私が経験している日系企業でのインターシップの経験から感じたことを話しました。

私が最も気になっていたことは、日本人従業員の方がアメリカ人の方のことを米人と呼んでいることでした。米人という表現は、外部から会社を見ている私にとって、侮辱的な表現に聞こえていたのです。それを彼女に伝えると、賛同してくださり、呼び方が時には態度に出るので、呼び方のような根本的なところから改善していく必要がある、とコメントしてくださいました。

また、それに加えて、日本語を話せない人が一人でもいる環境においては、英語を使うべきだとアドバイスしてくださいました。私は、このアドバイスにハッとさせられました。なぜなら、普段私が滞在しているエンジニアのオフィスにおいて、日本人は、私と同奨学生の荒瀬くん、それにくわえて日本人エンジニアの方一人で、その他の 10 人ほどのエンジニアはアメリカ人の方です。その環境にも関わらず、日本人同士の理解の互い違いを恐れて、日本語を日本人同士のコミュニケーションにおいて使用していました。彼女との対話後、アメリカ人の方の前で、日本語を喋らないように気をつけるようになりました。

彼女の講演会、彼女の著書の読破、それにランチでの直接の対話を経て、日系企業が海外に進出する際に生じる難しさを再認識しました。これから、日本国内の経済市場は縮小していき、ますます海外進出が必要とされる将来、自分の出身国の文化の特徴、他の国と比べた際に^{あらわ}顕になる異常さを認識しておくことは重要であると感じました。